

北海道大学大学文書館の紹介

北海道大学大学文書館 井上 高聡

1. 大学関係資料と大学文書館の設立

札幌農学校開校から50周年にあたる1926年、農学部農業経済学科教授の中島九郎が大学公文書を精査して『北海道帝国大学沿革史』を執筆し、大学の刊行物として発刊した。このとき同時に、大学公文書の整理を附属図書館が行なった。その後も附属図書館では大学関係資料を収集し、特に1966年の創基90周年に展示会を開催したことを契機に、大学沿革関係資料の収集・保存に努めることとなり、1971年には「北海道大学沿革資料室」（以下、「沿革資料室」と略）を開設した。1976年の創基100周年に関わる『北大百年史』編纂に際しては、「沿革資料室」の大学関係資料が中心的な資料となり、また、編纂に際して新たに収集した膨大な個人資料等も「沿革資料室」に保存されることになった。

しかし、附属図書館の「沿革資料室」は、実際には、北海道・サハリン・クリル諸島・ロシア極東地方・シベリアといったユーラシア北部に関係する文献を収集・管理する「北方資料室」の一隅にあり、資料の管理も「北方資料室」担当の図書館職員が行っていた。従って、資料の収集窓口や保管場所としては機能していたものの、不本意ながら収集資料の整理には手が回らない場合が多かったようである。

2001年、北海道大学は創基125周年を迎え、記念事業の一環として1998年から2004年にかけて、北海道大学125年史編集室において『北大百二十五年史』等の大学史編纂を行なった。この時期には京都大学大学文書館の開設をはじめとする大学アーカイブズ整備の動きや、2004年の国立大学の法人化などがあり、北海道大学においても大学関係資料を収集・保存する独立した機関が必要であるとの声が高まるようになっていった。このような背景の下、2005年5月に北海道大学大学文書館が設立された（附属図書館沿革資料室所蔵の資料は、順次、大学文書館へ移管することを予定している）。

2. 大学文書館の業務

北海道大学大学文書館は、「本学の保存期間が満了した法人文書及び本学の歴史に係る各種資料の収集、整理、保存、調査研究等を行い、閲覧、公開等の利用に供することを目的とする」と定められている。収集・整理・保存、調査研究、閲覧・公開が、中心的な業務である。

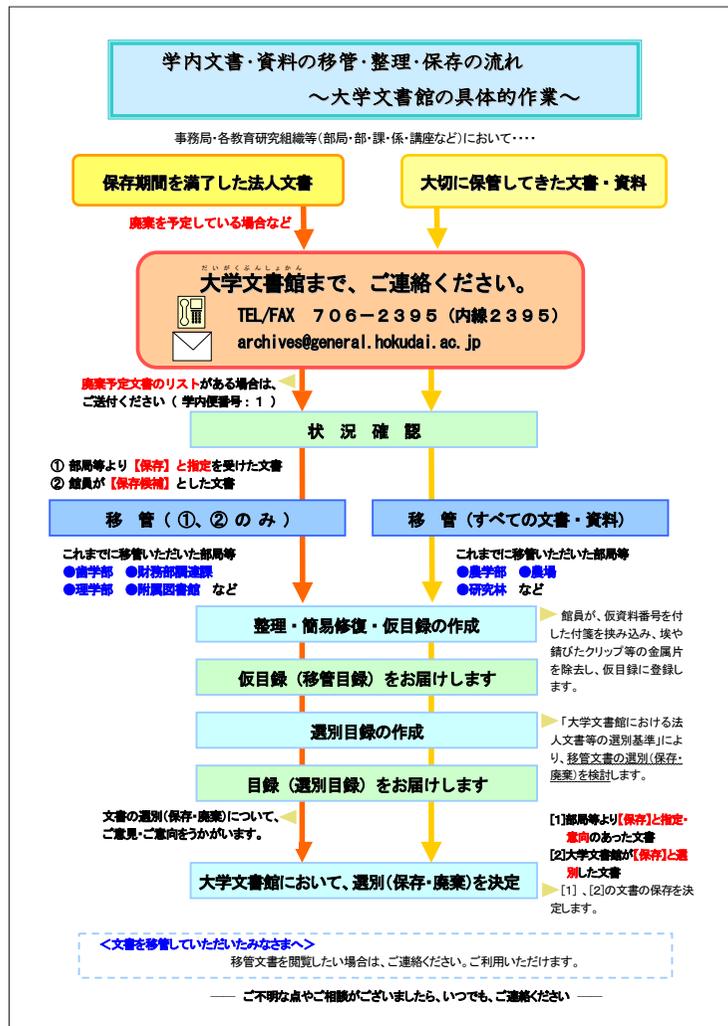
(1) 資料の収集・整理・保存

現在、大学文書館が最も力を入れているのは、資料の収集・整理である。資料は大きく大学公文書と大学関係者の私文書に分類できる。

大学公文書については、保存期間を満了した法人文書を選別し、保存文書を大学文書館所蔵資料として整理・保管を行なう。これまでに、部局等から約 800 箱分の文書の移管を受け、旧農学部附属演習林文書（約 7,500 点）などの選別作業を行なった。しかし、「法人文書管理規程」等の学内の関連規程では保存期間を満了した法人文書を大学文書館に移管するように規定されていないなどの理由で、必ずしも文書の移管が順調に進んでいると

は言えない。現在は、各部局等に対して、文書を廃棄する際に連絡をするように依頼するという形で対応している。2006 年 11 月には、リーフレット「学内文書・資料の移管、保存ガイド」（右図）を作成し、職員共用 Web サイト上の全学掲示板に掲載したり、機会があるごとに配付したりして、文書の移管を呼びかけている。

私文書については、多くの成果を得ている。大学文書館では、大学史調査の一環として旧制帝国大学時代に理学部や農学部に入学生について調査を進め、ご本人や関係する方々にお話をうかがうことができ、写真や学生証、合格通知などの文書類といった貴重な資料をご寄贈いただいた。他には、札幌農学校学生の受講ノート、総長経験者など大学で重きをなした人物の関連資料などをご遺族から受贈し、諸資料を補足するような証言をうかがった。また、「家の整理をしていたら出てきたけれど



捨てるには忍びないから」と、大学関係の小物などをお寄せいただくこともある。あるいは、地方出身者のための寮（例えば仙台学寮）や、信仰者などが入舎した寄宿舎の閉寮・閉舎が決まったために、関係資料をお譲りいただく話も進んでいる。

資料の収集に関しては、公文書にしても私文書にしても、大学文書館が積極的に動くことにより、資料に関する情報や資料そのものが集まり、また別の情報と資料へと繋がっていくことを日々実感している。

(2) 調査研究

調査研究に関しては、前述したように女性入学者についての調査を行なった（詳細は、山本美穂子「北海道帝国大学理学部における女性の入学」、『北海道大学大学文書館年報』第1号、2006年2月）。その後も関係者とお付き合いをさせていただき中で、多くの資料と知見を提供していただいている。

現在は、寄贈資料の整理を進めるために、また寄贈者に対する感謝の意も込めて、資料あるいはその資料の旧蔵者について歴史的な位置づけを明確できるような調査を進めている。

今後も大学文書館における調査研究では、収集・整理した資料を調査研究し、その調査研究が新たな資料やその歴史的価値の発掘に結びつくというような関連を重視して進めたいと考えている。

(3) 閲覧・公開

資料の閲覧・公開については、人員やスペースの問題、さらに所蔵資料の目録や検索システム作成の途上であることから、かなり制限せざるを得ない状況である。閲覧体制を整えることが、大学文書館にとって第一の課題であると考えている。現在のところ、来館・閲覧希望者には事前にご連絡をいただくようお願いし、現体制において可能な範囲で対応している。

また、リファレンス等にもできる限りの調査と回答をしている。

(4) そのほか

定期刊行物として、大学文書館の年間の業務を報告する目的で『北海道大学大学文書館年報』を発刊している。内容は、研究調査の成果としての論文や資料紹介、資料収集・整理状況の記録などである。

また、年数回、大学史研究会を主催することを計画している。

3. これからの大学文書館の活動

北海道大学大学文書館では、常に資料の窓口でありたいと考えている。残念ながら間口は小さいが、その分、どこにでも足を運ぶ窓口でありたい。

データシート

平成 18 年 12 月 1 日現在

- ・ 機関名：北海道大学大学文書館
- ・ 所在地：〒060 0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目
北海道大学附属図書館 4 階
- ・ 電話 / FAX：011-706-2395
- ・ E-mail：archives@general.hokudai.ac.jp
- ・ ホームページ：http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/
- ・ 交通：JR 札幌駅より約 700m（徒歩約 10 分）
地下鉄さっぽろ駅より約 910m（徒歩約 15 分）
- ・ 開館年月日：2005 年 5 月 1 日
- ・ 設置根拠：北海道大学大学文書館規程
- ・ 組織：館長、副館長、委員会（運営委員会、資料保存検討委員会）、
兼務教員、館員（助手、専門職員 各 1 名）、事務（事務局総務部総務課）
- ・ 建物：延床面積 370m² 書架延長 837m
- ・ 収蔵資料の概要（平成 18 年 12 月 20 日現在）：
移管法人文書（保存が決定した文書） 約 4,500 冊
図書・刊行物 約 4,000 冊
個人資料 約 1,000 点
- ・ 開館日数 / 閲覧室利用数（平成 17 年度）：
241 日 / 閲覧業務は準備段階のため、正式に計上していない。
- ・ 主な事業（平成 18 年度）：
刊行——『北海道大学大学文書館年報』第 2 号
研究会——第 1 回北海道大学史研究会



事務室：附属図書館 4 階



資料保存庫：旧図書館書庫など